

バイオマスタスクフォース（BTF）の活動について（2019年3月7日）

バイオマスタスクフォース座長（農研機構） 中村真人

1. 平成30年度の活動報告

（当初計画）

- 1) つくば国際戦略総合特区事業の枠組みで実施されている「藻類バイオマスエネルギーの実用化」について、委員及び委員の関係者がそれぞれの得意分野での貢献を継続する。
- 2) アクアポニックスに関しては、継続して取り組みを推進する。

2. 平成30年度の活動実績

- 1) 7/12, 9/14に飯島アクアポニックスにおいて、現地検討を行った。
- 2) 6/27, 2/26にバイオマスタスクフォース会合（通算15, 16回目）を行い、今年度の活動および来年度の計画について議論した。
- 3) アクアポニックス技術のマニュアル化及びアクアポニックスへのバイオマス技術の新たな活用に向けて、取り組みを進めた（別紙）。
- 4) つくばで開催された第17回世界湖沼会議（平成30年10月15日～19日）において、アクアポニックス技術の紹介を行った（別紙）。

3. 平成30年度の活動の総括

つくば国際戦略総合特区事業の枠組みで実施されている「藻類バイオマスエネルギーの実用化」については、筑波大学が代表機関を務め研究開発を進めた。

アクアポニックスについては、教育用アクアポニックスシステムをベースとした環境自律制御型及び再生可能エネルギーと雨水による自立型システムの構築等によりアクアポニックス技術を改善することができた。一方、第17回世界湖沼会議等において、アクアポニックスシステムを積極的に広報し、国内外の関係者から高い評価を得た。

4. 平成31年度の活動計画

- 1) つくば国際戦略総合特区事業の枠組みで実施されている「藻類バイオマスエネルギーの実用化」について、委員及び委員の関係者がそれぞれの得意分野での貢献を継続する。
- 2) アクアポニックスに関しては、継続して取り組みを推進する。
- 3) 新規事項として、小型UVA（ドローン）利用による農地、湖沼、河川の地球温暖化ガス測定技術の開発を行う。